

## 令和8年(2026年)1月 青果部 主要品目の市況

	種類	品名	市況の概要	2026年1月 数量 (トン)	2026年1月 平均単価 (円)	前年同月比 数量	前年同月比 平均単価
1	野菜	大根	神奈川県産・千葉県産中心の入荷でした。干ばつの影響により太り悪く、昨年に比べ数量はやや減少しました。また、高値であった昨年に比べ荷の動きが悪く、平均単価はかなり安く推移しました。	778	74	92%	53%
2		はくさい	茨城県産中心の入荷でした。潤沢な入荷量で荷動きが悪く、価格相場が安い状態が続きました。数量は増加、平均単価は大幅に安く推移しました。	887	60	115%	40%
3		きゅうり	宮崎県産・千葉県産中心の入荷でした。気温が低く、生育がやや遅れ気味でした。入荷量が少なかったにもかかわらず荷動きが悪く、価格相場が低い状態が続きました。数量・平均単価ともにやや減少しました。	175	492	95%	97%
4		ほうれん草	群馬県産・茨城県産中心の入荷でした。年末年始の寒波の影響もあり、数量はかなり減少しました。平均単価は、昨年が高単価であったこともあり、安く推移しました。	48	602	79%	88%
5		馬鈴薯	北海道産はほぼ終了し、九州産は夏場の高温で収穫量が少なく、全体的に数量はやや減少、平均単価は高く推移しました。	218	306	94%	117%
6	果実	みかん	温州みかんやいよかんなどの中柑橘類が不作の昨年度より軒並み出来が良く、産地によっては一昨年より多いところもありました。しかし、12月当初は産地から昨年を意識した価格要請があり、年末に在庫を抱え、1月は終始厳しい販売となりました。結果として、数量はかなり増加、平均単価はかなり安く推移しました。	586	288	131%	56%
7		りんご	主産地である青森県産のふじが小玉であったことから、価格相場の見通しを下げることとなりました。当市場では山形県産・長野県産を中心に入荷した結果、数量・平均単価ともにやや減少しました。	115	448	91%	96%
8		いちご	中旬から下旬にかけては、主産地である栃木県産を中心に、福岡県産も増量となった。年末から比較的売場が確保されていたことから価格相場が大きく崩れることなく堅調な展開となりました。数量は増加、平均単価はやや安く推移しました。	86	1,996	112%	95%

## 【増減基準】

- ①並み、横ばい:(+)-0~2%
- ②やや増加(減少):(+) 3~10%
- ③増加(減少):(+) 11~20%
- ④かなり増加(減少):(+) 21~50%
- ⑤大幅に増加(減少):(+) 51%以上